

第6回、第7回の小委員会における取組について

有明海・八代海等総合調査評価委員会（以下「委員会」という。）では、第42回委員会(平成30年3月13日)において、「今後の審議の進め方」及び「小委員会の設置」を決定し、これに基づき、水産資源再生方策検討作業小委員会（以下「水産小委」という。）、海域環境再生方策検討作業小委員会（以下「海域小委」という。）を設置した。

前回の第45回評価委員会(令和2年10月2日)の開催後においては、水産小委、及び海域小委を合同で2回(第6回:令和2年12月8日、第7回:令和3年2月22日)開催した。それらの小委員会における検討状況について、以下のとおり報告する。

1. これまでの検討状況

「小委員会の作業方針について」(第1回水産・海域小委(合同開催):平成30年8月29日)に示された作業方針では、「関係省庁及び関係県から適宜報告を受けつつ、水産小委と海域小委において知見の収集・整理を行う。」こととされている。そのため、第6回水産・海域小委(合同開催)では、「有明海及び八代海等を再生するための特別措置に関する法律」第18条第1項に基づいて主務省庁及び関係県等が主に平成28年度以降に実施した調査結果等を対象に、ヒアリングを行った。

また、第6回、及び第7回水産・海域小委(合同開催)では、事務局より「今後の審議の進め方」に示された「中間的な取りまとめ(中間報告)」(以下「中間取りまとめ」という。)に向けた作業の進捗状況について報告した。なお、中間取りまとめとは、「有明海・八代海等総合調査評価委員会報告」(平成29年3月)から概ね5年を目途にした、再生方策や調査・研究開発の実施状況及びその成果等についての中間的な取りまとめ(「今後の審議の進め方」)である。

1.1 第6回水産・海域小委員会(合同開催):令和2年12月8日

第6回水産・海域小委(合同開催)では、主務省庁及び関係県が実施した調査結果等のヒアリングとして、山口(敦)委員から魚類等に関する報告、及び農林水産省農村振興局から有用二枚貝類に関する報告を受けた。また、中間取りまとめに向けた検討として、中間取りまとめに盛り込む内容と第1章「はじめに」、及び第2章「再生方策・調査・研究等の実施状況」等について審議した。

(1) 関係省庁・関係県等からの報告

○山口(敦)委員からの報告

「有明海・八代海の魚類～これまでに実施してきた調査研究をもとに～」

有明海および八代海で行ってきた魚類の分布、生態、種組成、資源、再生産機構等に関するこれまでの約20年間に及ぶ調査研究の成果から、有明海では、有明海中央部の産卵場から奥部まで輸送される魚類の資源減少程度が大きいこと、奥部の干潟・

河口・浅海域が多く魚類の成育場として重要であること等を説明した。一方、八代海については、有明海とは異なり、八代海独自の調査研究が必要であることを明らかにした。

今後は、有明海・八代海の両海域の環境や海洋構造の違いなどを含めて魚類生態系構造と機能の解明、生態系構造がそれぞれ異なる要因の解明を図ることで、両海域固有の再生方策の検討に役立つことができるものと考え、現在も研究を続けている。

○農林水産省(農村振興局)からの報告

「二枚貝類等生息環境調査(ナルトビエイによる水産有用二枚貝類への影響)」

平成 18 年度以降、水産有用二枚貝類等を捕食するナルトビエイの来遊量、摂餌状況等の調査を実施した結果、ナルトビエイ来遊量(DOIRAP 法による)は、平成 20～22 年度は 40～50 万個体、平成 23 年度以降は減少し、平成 24 年度以降は概ね 10～20 万個体で推移しているものと推定された。また、ナルトビエイの胃内容物調査ではアサリ、サルボウなどが確認でき、水産有用二枚貝の摂餌量は、平成 20～22 年度は 2,000～2,500 トン、平成 24 年度は 200 トン以下に減少し、平成 25 年度以降は 1,000 トン程度で横ばいの状況にあると推定された。

(2) 中間取りまとめに向けた検討について

○中間取りまとめに盛り込む項目、及び中間取りまとめ第 1 章「はじめに」案

事務局から、中間取りまとめの作成経緯、構成案を提示した。また、中間取りまとめ第 1 章「はじめに」の事務局案として、これまでの評価委員会における経緯、委員会報告、小委員会設置、中間取りまとめの位置づけ等について提示した。

○中間取りまとめ第 2 章「再生方策・調査・研究等の実施状況」案

中間取りまとめ第 2 章で整理する「再生方策・調査・研究等の実施状況」として、これまでの水産小委、海域小委で関係省庁及び関係県等から報告のあった以下の事項について、事務局の作成した概要を提示した。

(タイラギ)

- ・タイラギ種苗生産・母貝団地の取組
- ・タイラギの浮遊幼生調査

(アサリ)

- ・アサリの浮遊幼生調査
- ・アサリの浮遊幼生ネットワークの形成に向けた取組

(有用二枚貝)

- ・アゲマキ、ウミタケの取組

(魚類等)

- ・藻場・干潟分布状況把握

(有用二枚貝)

- ・底質環境調査

(海域環境等)

- ・海洋環境整備事業について
- ・土砂に関する知見の蓄積
- ・有明海等の閉鎖性海域と森林に関する調査

1.2 第7回水産・海域小委員会(合同開催): 令和3年2月 22 日

第6回水産・海域小委(合同開催)に引き続き、中間取りまとめに向けた検討として、第1章及び第2章の構成と、第2章「再生方策・調査・研究等の実施状況」等について審議した。

(1) 中間取りまとめに向けた作業について

○中間取りまとめ第1章及び第2章の構成案

事務局から、中間取りまとめ第1章案「はじめに」として、これまでの評価委員会における経緯、委員会報告等に加えて、平成28年度委員会報告における基本的な考え方と再生目標を追加し、また第2章の冒頭に主要4項目(ベントス、有用二枚貝、ノリ養殖、魚類等)における現況についての整理状況を提示した。

○中間とりまとめ第2章「再生方策・調査・研究等の実施状況」案

中間とりまとめ第2章で整理する「再生方策・調査・研究等の実施状況」として、前回に引き続き、これまでに水産小委、海域小委で報告のあった以下の事項について、事務局の作成した概要を提示した。

(ベントス)

- ・海域全体の底生生物の状況と変動要因の検討
- ・ベントス群集の変化・変動要因の解析

(タイラギ)

- ・有用二枚貝に関する資料の収集・整理・分析状況(タイラギ)
- ・タイラギ減少・減耗要因と海域特性との関連性の検討
- ・浮泥に関する検討
- ・タイラギ移植実験に関する検討
- ・有明海奥部におけるCODによる餌料環境とその長期変動の推定について

(アサリ)

- ・有用二枚貝に関する資料の収集・整理・分析状況(アサリ)
- ・各地域の特性に応じた有明海の漁場環境改善実証事業

(有用二枚貝)

- ・ナルトビエイによる水産有用二枚貝類への影響調査

(魚類等)

- ・貧酸素水塊の発生状況と予察の取組にかかる整理と検討

- ・有明海・八代海における鞭毛藻赤潮にかかる整理と検討
(ノリ養殖)
- ・有明海におけるノリの色落ちにかかる整理と検討
- ・二枚貝類養殖等を併用したノリ色落ち軽減技術の開発
(海域環境等)
- ・令和元年8月の前線に伴う大雨の影響について

また、第6回小委員会での指摘を受けて、以下の修正版を再提示した。

(有用二枚貝)

- ・アゲマキ、ウミタケの取組

(魚類等)

- ・藻場・干潟分布状況把握

(海域環境等)

- ・海洋環境整備事業について
- ・有明海等の閉鎖性海域と森林に関する調査